当院のリハビリテーション室に関する調査と検討

三好市国民健康保険　市立　三野病院
理学療法士　井村　佳代

はじめに

わが国は人口の高齢化（65歳以上）

全人口　約23%

三好市　約36%

三好市はすでに超高齢社会

高齢者

・身体機能が低下

・廃用症候群に陥る

↑

リハビリテーションの介入が重要

・開設後の患者の傾向を調査

・リハビリテーションの方向性を検討

当院概要

・三好市国民健康保険市立三野病院
・病 床 数
　一般65床、結核10床　　計75床
・診療科目
　内科、外科、整形外科

リハビリテーション室概要

スタッフ数 ： 理学療法士　２名
作業療法士　１名
言語聴覚士　２名

施設基準 ： 脳血管リハビリテーション（Ⅱ）
運動器リハビリテーション（Ⅱ）
呼吸器リハビリテーション（Ⅰ）

経過：平成19年7月　リハビリテーション室が開設　PT1名
平成21年4月　PT1名が増員
平成22年4月　OT1名、ST2名が増員

調査内容

当院におけるリハビリテーションの実態と効果を調査

変数：
- 患者数
- 患者の在院日数
- リハビリテーション開始までの日数
- 日常生活動作評価（Barthel Index）

群分け：
- 年度別（H19年、H20年、H21年、H22年）
- 疾患別（脳血管、運動器、呼吸器、廃用）
- Barthel Index（入院時、退院時）

統計処理：
- 比較→ 一元配置分散分析 ボンフェローニ
  ウィルコクソン符号順位検定
- 相関→ ピアソンの相関係数
- 有意水準は5%とする

リハビリテーションの実態

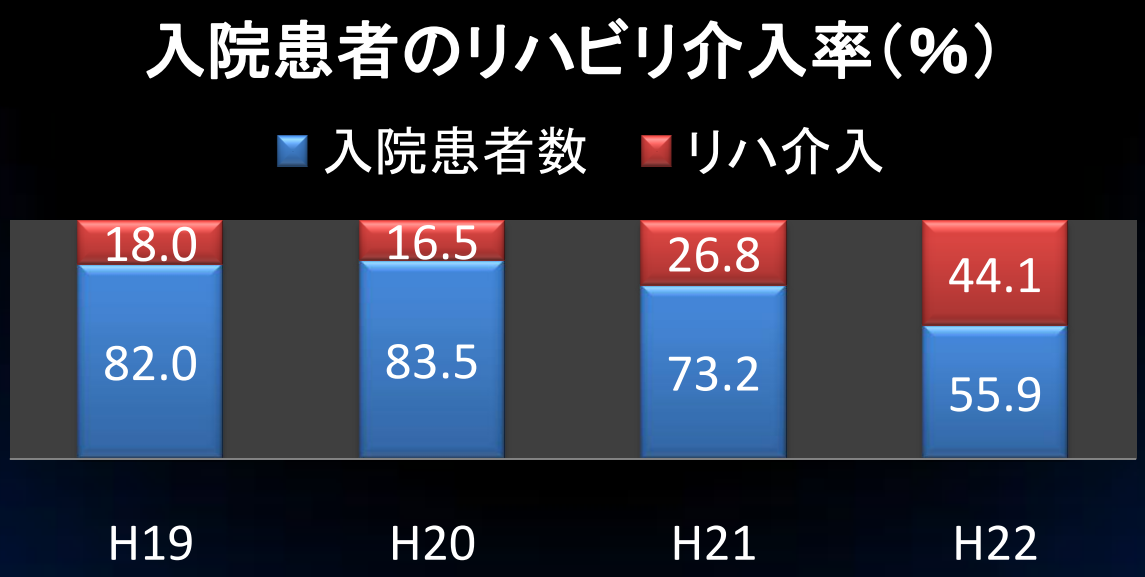
患者数： 534名（外来125名） 男性227名 女性307名

平均年齢： 79.6±11.1歳

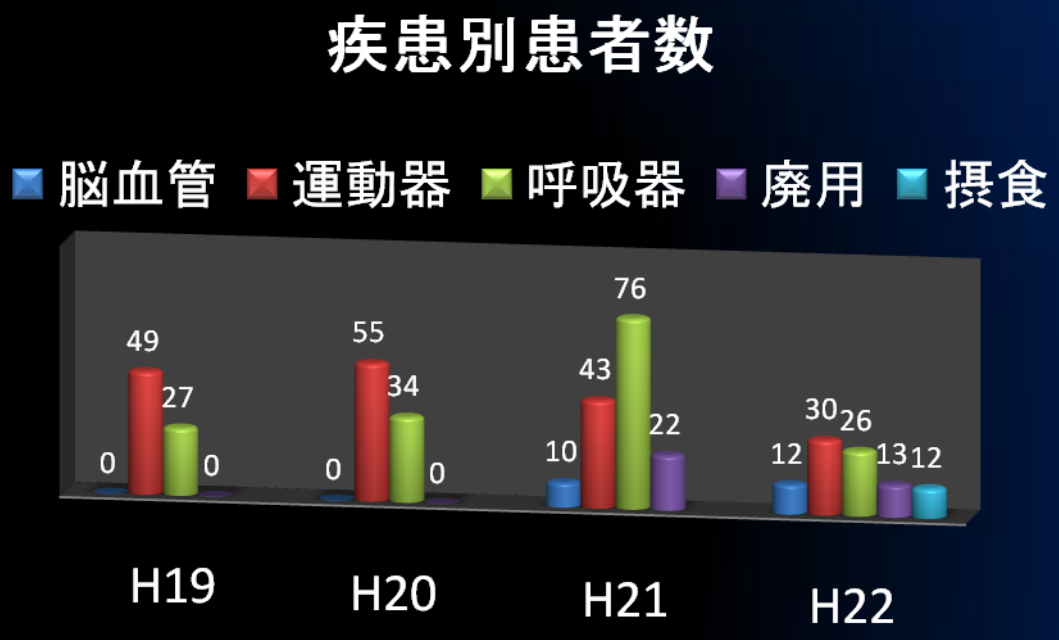
平均在院日数： 53.8±41.9日

平均リハビリ開始までの日数： 16.2±26.6日

平均リハビリ単位数/日： 20.1 ±8.2単位

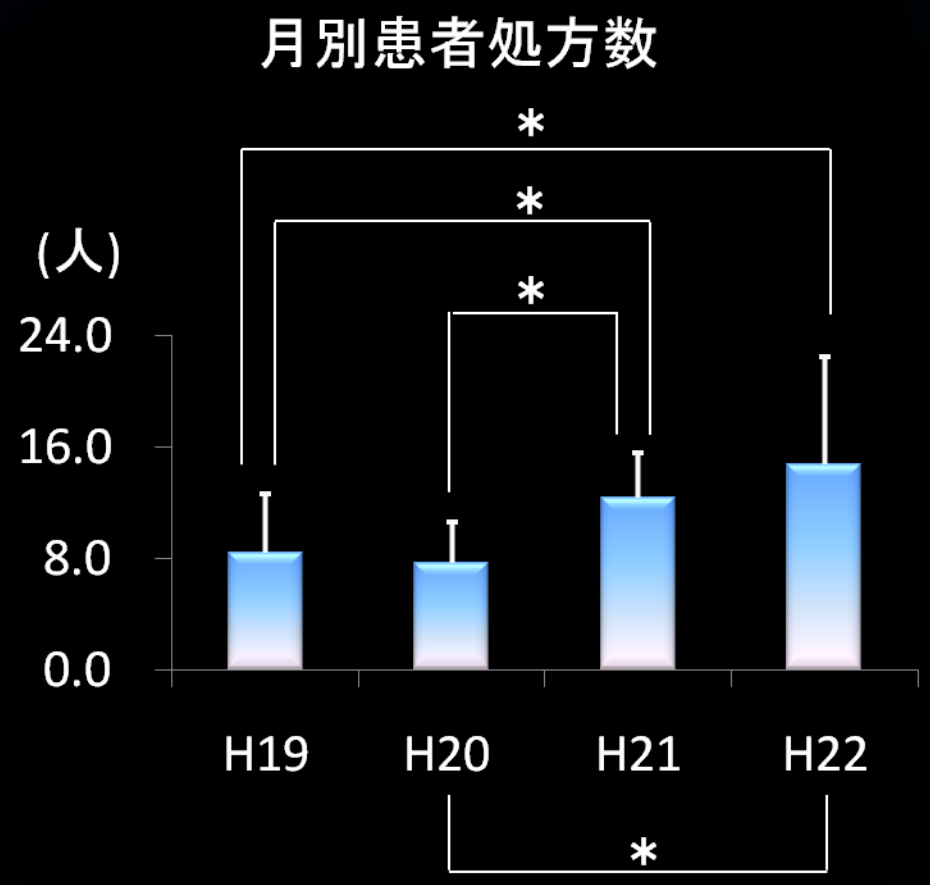


リハビリテーションの患者数①



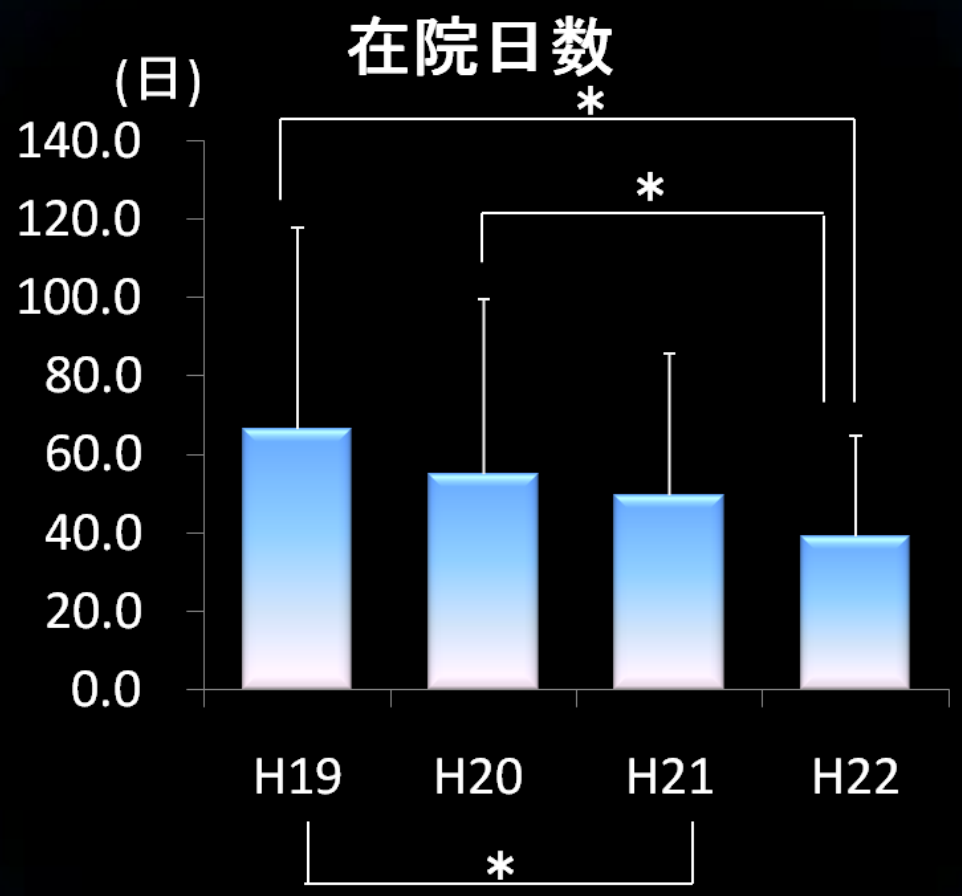
- 入院、外来とも年々患者数が増加
- 呼吸器の患者数も増加
  H21より脳血管が算定　同時に廃用も増加
  H22よりST増員し摂食機能療法も増加

リハビリテーションの患者数②



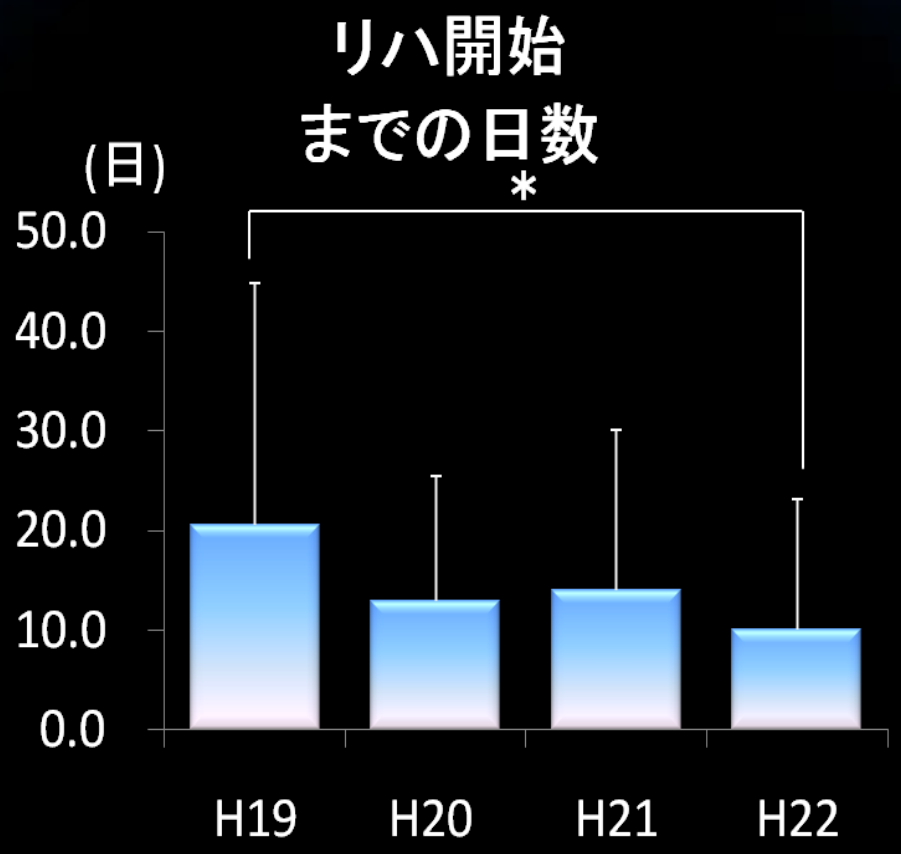
H19とH20に比べてH21とH22が有意に増加

患者の在院日数



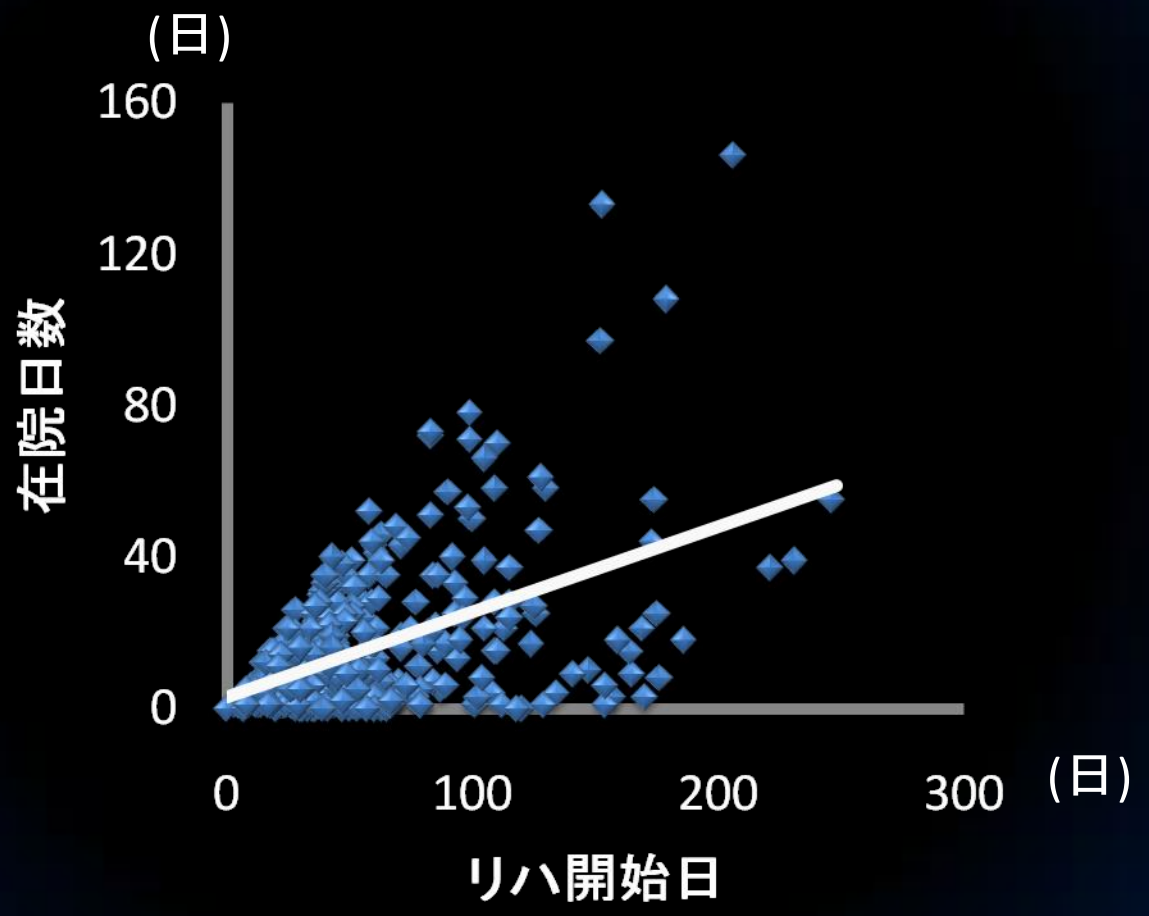
H19に比べH21、
H19やH20に比べH22が有意に減少

リハビリテーション開始までの日数



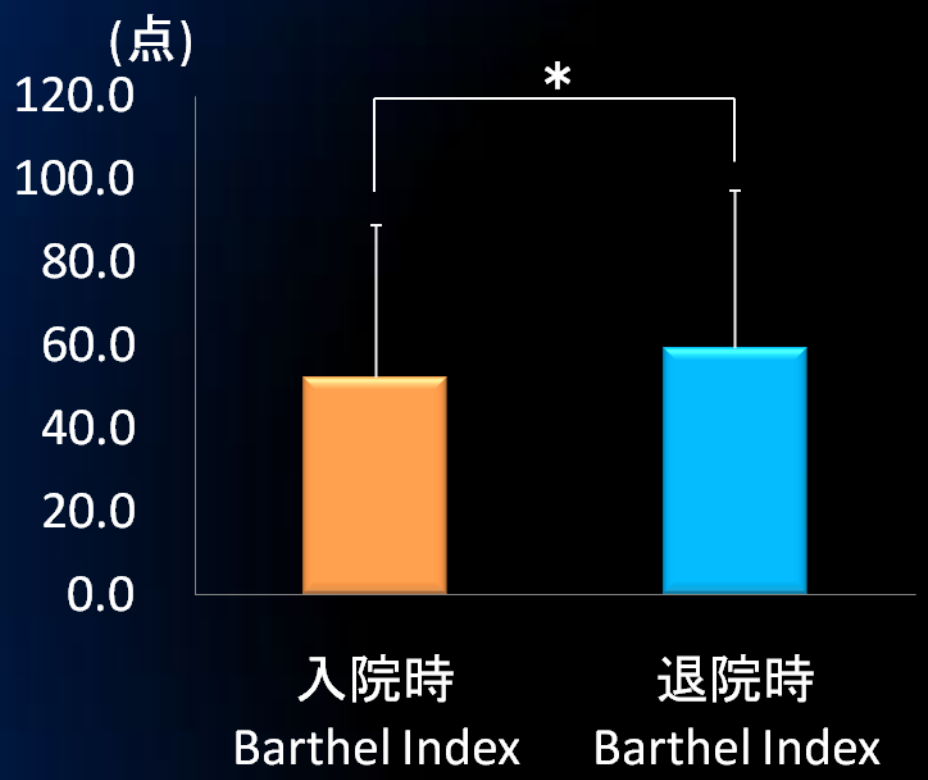
H19に比べH22が有意に早期から開始

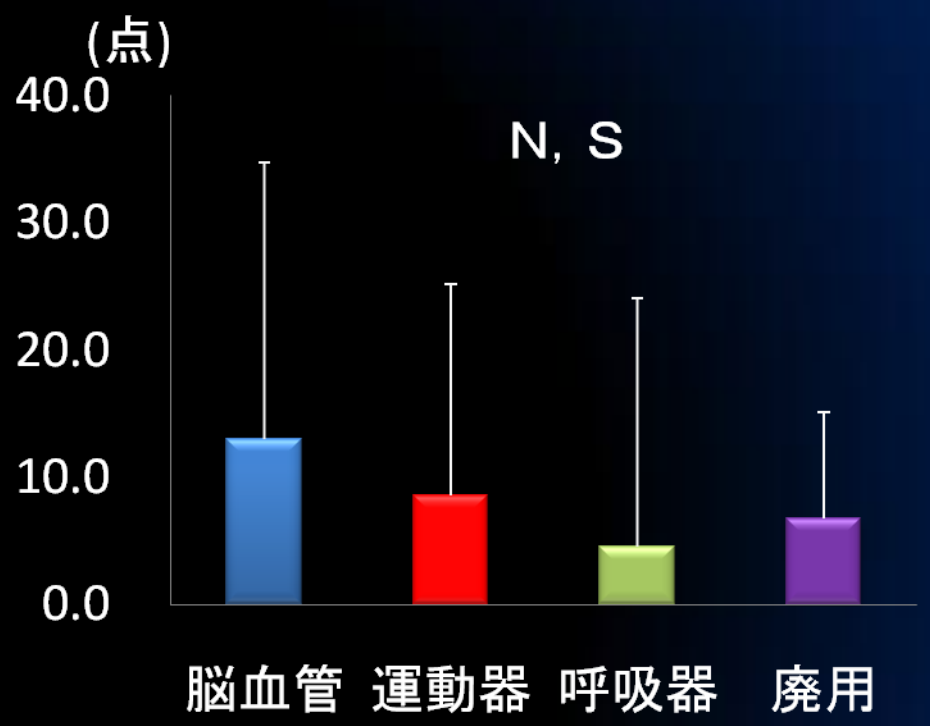
リハビリテーション開始までの日数と在院日数の関係



リハ開始日が早期なほど在院日数も短い

Barthel Index 比較

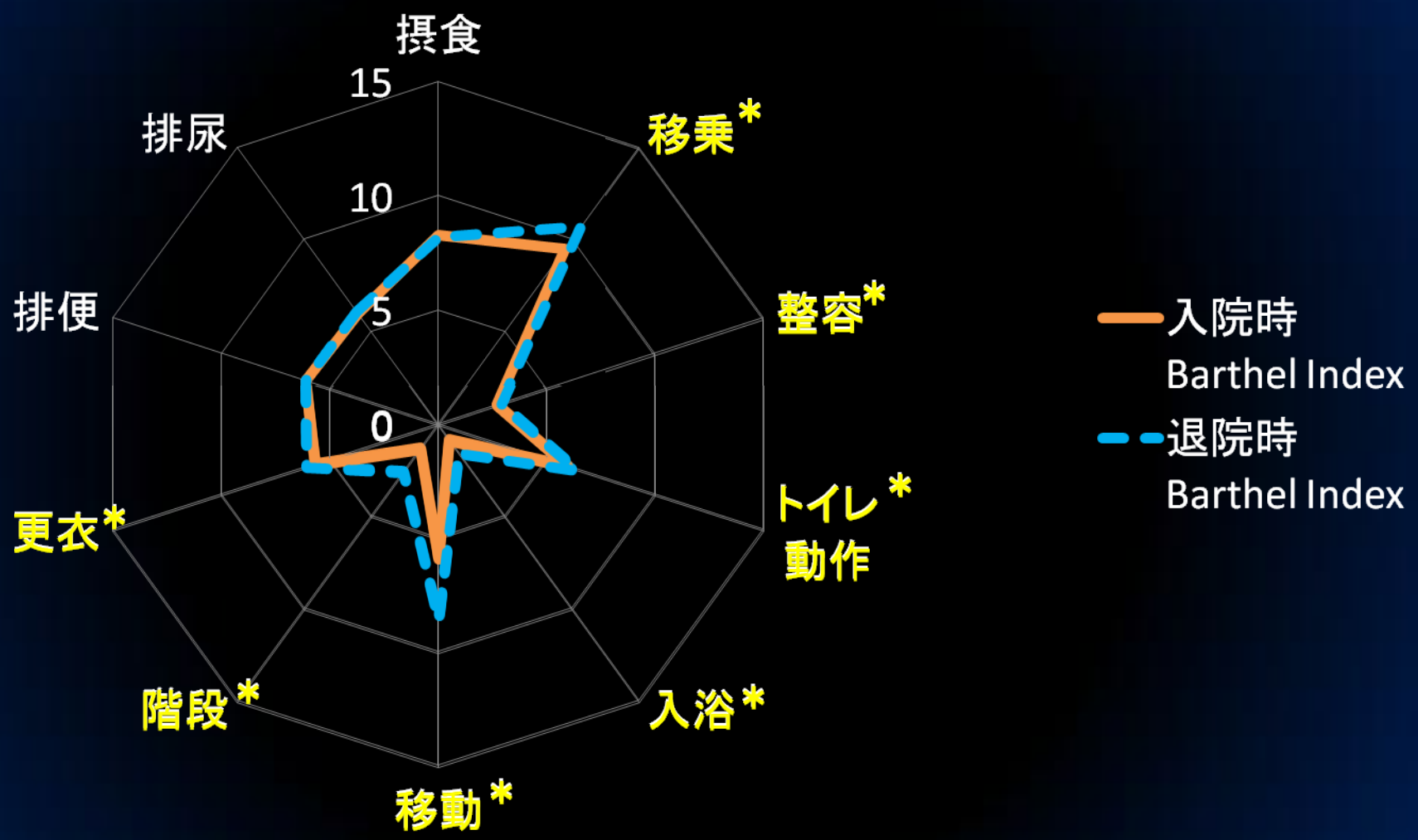




・入院時と退院時では有意に得点が向上

・疾患別では有意差なし

Barthel Index 項目 比較



黄色項目において退院時が有意に向上

考察①

・リハ患者数、単位数ともに増加傾向

・リハ患者の平均年齢79.6歳

・疾患を問わずBarthel　Index 、日常生活動作の向上

・リハ介入までの日数も短縮傾向

・早期リハ介入することでリハ患者の在院日数短縮

高齢者でも疾患を問わず早期から
リハを提供していく必要あり

考察②

回復期病棟を導入することで脳血管リハに効果あり（志村2008）

リハを必要とする回復段階の患者に対しても受け入れる体制が重要

おわりに

- 当院におけるリハビリテーションの実態・傾向を調査した。
- リハビリテーションを介入している患者が増加していた。
- 高齢の患者においてもリハビリテーションの効果が示唆された。
- 今後はリハビリテーションを必要とする回復段階の患者を受け入れる体制も重要となってくると思われる。

ご清聴、
ありがとうございました。